

一 検討経過 一

平成 30 年度から令和元年度にかけて、秋元雄史美術館長を委員長に、学識経験者や地元関係者の方々から構成された再整備基本構想策定検討委員会で美術館再整備について検討し、その結果として、令和元年 11 月に「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 提言」が提出されました。

本構想は、この提言をもとに専門家の協力を得ながら検討を進め、策定しています。

(1) 練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 委員名簿

令和元年 11 月 1 日現在

区立美術館長	秋元 雄史	東京藝術大学教授・大学美術館長
学識経験者	青柳 正規	山梨県立美術館館長 多摩美術大学理事長 元文化庁長官
	大谷 康子	ヴァイオリニスト 練馬区文化振興協会理事長
	高橋 幸次	国際ファッション専門職大学教授 元日本大学芸術学部美術学科教授
	福井 直昭	武蔵野音楽大学副学長 武蔵野音楽大学図書館・楽器ミュージアム館長
地元団体関係者	江村 健二	サンツ中村橋商店街振興組合理事長
	島田 紘一呂	練馬区美術家協会会長
	関口 登美雄	練馬区貫井町会長
学校教育関係者	江川 誠志	東京都中学校美術教育研究会会長 練馬区立豊玉中学校長
区民 (美術館利用者)	今田 裕子	区政改革推進会議委員 (公募区民)
	須藤 麻世	美術館運営協議会委員 文化財保護推進員 (公募区民)
	前田 尚子	美術館サポーター (ボランティア)
区関係職員	小金井 靖	地域文化部長
	矢尾板 克之	施設管理担当部 施設整備課長
	近野 建一	産業経済部 経済課長
	小沼 寛幸	地域文化部 文化・生涯学習課長
	竹永 修一	都市整備部 東部地域まちづくり課長
	原田 昭二	土木部 道路公園課長
	清水 優子	教育振興部 光が丘図書館長

事務局：練馬区 地域文化部 文化・生涯学習課

(2) 美術館再整備基本構想策定検討委員会等の開催状況

ア. 検討委員会

回	開催日	議題
1	平成 30 年 5 月 29 日	・美術館再整備について ・美術館の目指すべき将来像について
2	平成 30 年 8 月 29 日	・美術館における再整備のコンセプト（たたき台）について
3	平成 30 年 12 月 26 日	・美術館における再整備のコンセプト（たたき台）について
4	平成 31 年 3 月 20 日	・美術館における再整備のコンセプト（たたき台）の確認 ・再整備のコンセプトに基づく施設機能について
5	令和元年 5 月 29 日	・再整備のコンセプトに基づく施設機能について
6	令和元年 8 月 28 日	・美術館再整備ワークショップの実施報告について ・これまでの検討委員会における議論のまとめについて
7	令和元年 11 月 20 日	・提言（案）について

イ. 美術館再整備ワークショップ

「びじゅつかんのカタチ モビール（動く彫刻）を作ろう」実施概要

目 的	子育て世代の方々に美術館を身近に感じてもらう機会を提供し、子育て世代のニーズを把握し、美術館再整備の検討に必要な情報を収集する。
日 時	令和元年 7 月 28 日 【1 回目】 午前 10 時 30 分～ 【2 回目】 午後 2 時～ (各回 120 分)
会 場 参加人数	・練馬区立美術館創作室 ・参加人数 計 28 名（子ども 14 名、保護者 14 名）
内 容	①親子でのワークショップ 美術館内を巡りながら様々な形を見つけ、ボール紙等でその形をモチーフにしたモビール（動く彫刻）を作る。 ②保護者によるディスカッション 美術館に取り組んでほしい事や充実してほしい設備や機能について、自由に意見を述べてもらう。
ま と め	・参加者の多くは美術館の利用に対してハードルが高いと感じている。 ・子育て世代の利用を促進するため、キッズスペースやおむつ替えスペースの充実、入りやすいエントランスづくり等の施設整備が必要である。 ・子ども向けプログラムなど、ソフト事業の充実が望ましい。 ・子育て世代の利用を歓迎する姿勢を示すため、美術館側からの情報発信が必要である。